

本庄早稲田・リサーチパークニュース 2008.12

本庄早稲田能開催

野村万作、野村萬齋・・・ 当代最高の演者が本庄に登場

11月1日(土)、本庄市民文化会館において本庄早稲田能が開催されました。昨年秋、リサーチパークで開催された『祭禮錦・能装束 - 山口憲の世界 - 』展を受けて企画されたもので、本庄市、早稲田大学の共催、当財団等の協賛により待ちに待った開催となりました。

能の代表曲とも言える『羽衣』、狂言の定番『二人袴』、勇壮華麗な半能『石橋』を演目に据えて行われました。演目には一部、山口憲氏の手で作られた衣装が使用され、香川靖嗣氏、塩津哲生氏、野村万作氏、野村萬齋氏ほか当代最高の演者により素晴らしい世界が広がりました。

地元販売分は即日完売、当日は朝から入場を待つ列が出来るほどの熱烈な歓迎ぶりで、大きな期待が寄せられていました。期待を上回る演技に、上演中、会場は厳かな張り詰めた空気に包まれ、猛々しくも優美な獅子舞には思わずため息がもれました。

また狂言では絶妙な掛け合いに会場を埋め尽くす観客から笑いがこぼれる場面もありました。



新・専務理事 嶋根繁氏に訊く

「本庄早稲田リサーチパーク」の展開、未来、そして・・・ (後編)

財団の今後の展開と可能性

今回は改めて本庄財団の役割、今後の展開、可能性についてふれたいと思います。

本庄財団のこれまでの研究プロジェクトはともすれば個々の教員のサポートを中心に活動してきましたが、これからは財団が主導でプロジェクトを立

ち上げ研究展開を図っていこうと考えています。そのために研究ワーキング(国際情報通信研究科、環境・エネルギー研究科、埼玉県、本庄市、財団)を発足し本庄にふさわしい研究の切り口とは何かを検討してきました。

その中で研究開発そして人材育成に取り組むなど基本的な方向性を明らかにしてきました。特に今後は環境が

キーワードになります。本庄市では本庄早稲田駅周辺の土地区画整理事業がありますが、「本庄早稲田の杜」というみどり豊かなまちづくり構想を検討しています。全体構想イメージ(図2)のように先端の研究をしていながら、財団が核になり住民、企業のみさんと一緒に本庄地域の未来モデルを構築していきたいと考えています。



図1 組織展開イメージ



図2 全体構想イメージ

「ワセダの森こどもサマーセミナーin本庄」開催 両大学院および、本庄高等学院とともに。

7月26日(土)、8月2日(土)、8月19日(火)、20日(水)に本庄早稲田キャンパス内(早稲田大学高等学院、早稲田リサーチパークコミュニケーションセンター)において「ワセダの森 こどもサマーセミナーin本庄～夏休みワクワク実験教室～」が開催されました。夏休み中という事もあり、周辺地域(本庄市、上里町、美里町、神川町など)の小・中学生が総計300人以上集まりました。環境、科学、情報など24教室になり、大学の先生だけでなく大学院、高等学院の学生も丁寧に子供たちに関わる事で、より身近に大学の研究やものづくりの楽しさを知っていただけたのではないかと思います。12月21日(日)には「冬休み親子スーパーサイエン教室」が高等学院にて開催されます。12月1日～15日まで募集しておりますので、奮ってご参加ください(財団HPを参考にして下さい)。



多国籍料理教室第2回 ブラジル料理に挑戦

今年は「日伯交流年」。非常にタイムリーな開催でした。また、外国人の多い本庄市の中でもマジョリティグループであるブラジル人(約3千人)の方たちと、料理を通して交流を深められたことは大変有意義でした。

講師は、サダノ・マリーザさん、サダノ・マサオさんご夫妻でした。非常に手際良くデモンストレーションされたビーフアパルメジャーナの揚げ方に、きちんと整理整頓された日常生活が垣間見られます。

通訳は皆さんおなじみの宮本カズエさん。軽やかなサンバのステップも披露してくださいました。竹の子に似た野菜パルミト、そして素敵なデザート・マンジャルデココなども堪能し、ボリュームだけでなく、味も大満足なランチでした。お国の紹介では、バイオ産業やBRICsなど、新しいブラジルの一面についてもお話いただき、充実した内容でした。参加者60余名で熱気あふれる、まさにブラジル色の料理教室でした。



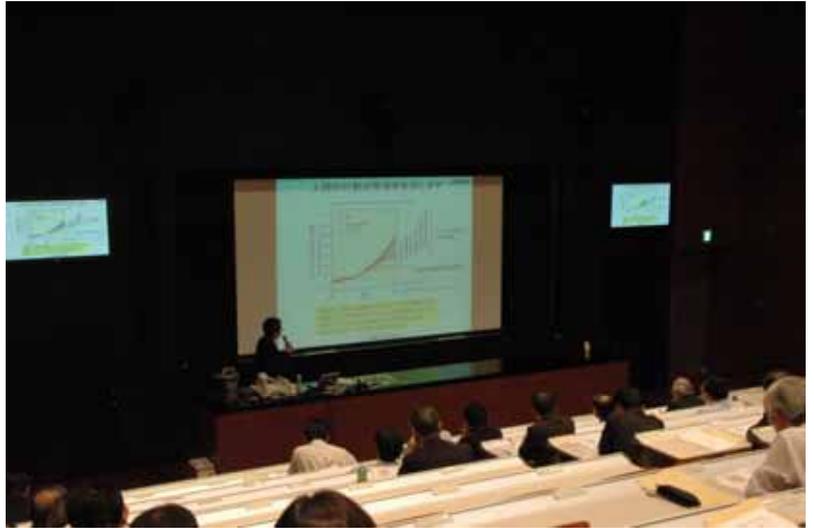
「マネージメント・セミナーin WASEDA第二弾！

～日本の最先端技術で”カーボンレス社会”を切り拓く！～」を開催

10月22日(水)、早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンターにて「マネージメント・セミナーin WASEDA～日本の最先端技術で”カーボンレス社会”を切り拓く！～」（全2回予定）を開催し、会場を埋めるたくさんの来場者がありました。

第1回目は、(独)産業技術総合研究所(AIST)太陽光発電研究センター 主幹研究員工学博士 松原 浩司 氏より「次世代の太陽光発電」をテーマに、地球の温暖化に関わる人間の行動の重要性、太陽光発電産業の現状、概説をお話しいただきました。日本の太陽光発電技術の歴史から2030年に向けた研究開発を問題点や専門的な技術の説明を含めながら講演いただきました。

終演後、参加された講演者、企業の方、支援機関の方々と交流会を開催しました。



NEC埼玉と財団協働イベント 農業体験第3回 稲刈り



10月25日(土)、当財団とNEC埼玉、NPO早稲田環境市民ネットワークの共催による農業体験第3回「稲刈り&収穫祭」が行われました。6月に行われた第1回田植え、8月の第2回「草むしり&生態観測」に続く第3回は待ちに待った収穫祭。参加した地域市民約100名は初めて触れる稲刈り用の鎌を片手に泥まみれになりながら大奮闘です。鎌の使い方がわからないお子様に父親が見本を示し、普段家で立場の弱いお父様も(少々)威厳を回復された様子です。

刈り取った稲の脱穀作業では、今ではなかなか見られない足踏み式の脱穀機に子供達の行列が出来ました。手と足を同時に使わなければならない脱穀機は、最初はなかなかタイミングが合わず苦戦しながらもだ

んだん慣れてくるとリズムよく稲が穂から飛び出していきます。

作業の後は、餅つきも実施。初めてづくしの体験に参加者からも貴重な体験が出来て充実した1日だった

リサーチパークWEB会議室予約システムを導入しました！



本庄研究機構ではさまざまな用途に応じて施設内の教室・会議室・レクチャールーム貸出を行っています。
この10月からはWEBからの予約も可能となりましたのでお知らせいたします。財団ホームページにてIDを発行フォームよりお申し込みいただき、ぜひご利用下さい。

施設紹介

レクチャールーム
講演会やセミナーを目的としたホールです。135名と100名定員の部屋があります。



レクチャールーム1

開発支援室・技術交流コーナー
開放型の会議スペースです。

研究開発室
授業や会議を目的とした教室です。



研究開発室N405

以上の空室状況や予約は当財団ホームページから承っております。

当財団HP
<http://www.howarp.or.jp/>まで。

財団法人本庄国際リサーチパーク研究推進機構 地域産官学研究会・地域活性化事業 助成金 助成事業発表

当財団は、2008年5月に解散した本庄国際リサーチパーク推進協議会の事業の一部（研究会助成金、起業化支援事業助成金）を継承し、本庄地方拠点都市地域において、産・学・官・市民の連携による地域社会の問題の解決や、産業の振興を通じて、本地域の活性化に向けた助成事業を開始します。助成事業は下記の7団体です。

1) 「地域研究会事業」

1件につき最大年間50万円、助成率100%、年間最大5件、最大2年間（初年度終了時に中間評価有）

・農業法人境野アグリジェ
「ブレンド乾燥蓄糞使用による農産物のブランド化」研究会

・早稲田大学国際情報通信研究センター
浦野 義頼 様
「本庄市における介護推進に関する」研究会

2) 「地域活性化事業」

1件につき最大年間100万円、助成率50%、年間最大5件、最大2年間（初年度終了時に中間評価有）

・ジェービーエレクトロニクス株式会社
「『最新型 音声発生機能付き防犯ブザー』の開発」

・有限会社埼玉ベテリナリーリサーチ
「食肉生産情報認証システム事業」

・関根桐材店
「炭化した桐廃材の有効活用事業」

・株式会社菊芋
「産学連携・農商工協同開発プランによる菊芋の商品化」

・藤芳園
「薔薇型葉牡丹・蘭型葉牡丹」

本庄研究機構年末年始のお知らせ

当財団の年末年始休暇は2008年12月28日～1月6日となります。

詳しくは
<http://www.howarp.or.jp/>まで

「地域水環境再生勉強会」元小山川・小山川 魚類・水質調査が紹介されました！

11月18日に行われた藤田小との合同魚類・水質調査が小山川・元子山川にて行われました模様を下記にて紹介されました。

NHK 11月18日
首都圏ニュース845
埼玉新聞 11月19日号15面
毎日新聞 11月19日号22面
朝日新聞 11月19日号33面



当日の様子



財団法人本庄国際リサーチパーク研究推進機構

〒367-0035 埼玉県本庄市西富田1011

TEL: 0495-24-7455 FAX: 0495-24-7465

<http://www.howarp.or.jp/>

<http://www.ioc-waseda.jp/>